

令和 6 年度 東京都立成瀬高等学校経営計画

東京都立成瀬高等学校
校長 高野 修一

1 目指す学校

(1) スクール・ミッション

高い知性と創造力を培い、広い視野をもち、品格のある豊かな人間性を養うことを教育目標とし、自立と責任、思考力、主体性を重視した教育活動を通じて、主体的に自らの人生を切り拓き、グローバルな視点をもって地域及び社会に貢献するリーダーを育成する。

(2) 教育目標

- ア 高い知性と創造力を培う。
- イ 広い視野を持ち、品格ある豊かな人間性を養う。
- ウ 若さあふれる健康な身体をつくる。

(3) スクール・ポリシー

ア グラデュエーション・ポリシー

スクール・ミッションに基づき編成された教育課程において、所定の単位を履修及び修得するとともに、その学修成果として以下の本校において育成を目指す資質・能力の 9 つの資質・能力を身に付け、本校で育成したい生徒像①～③に掲げる要件を満たした生徒に対して、校長が卒業を認定する。

【本校において育成を目指す資質・能力】

- ① 知識・技能…「基礎力の育成」「言語能力の育成」「進路実現力の育成」
- ② 思考力・判断力・表現力…「思考力の育成」「グローバル精神の育成」「自己キャリア向上力の育成」
- ③ 主体的に学習に取り組む態度 …「主体性の育成」「人間性の育成」「自己探究力の育成」

【本校で育成したい生徒像】

- ① グローバルな視点を持ち、地域及び社会に貢献できる、リーダーたる人物。
- ② 自らの人生を自らで切り拓く逞しさや思考力を備え、自己実現ストーリーを創造できる人物。
- ③ 自他を慮り、自立を追求し、責任を全うしようとする主体性のある人物。

イ カリキュラム・ポリシー

本校では、生徒がグラデュエーション・ポリシーに掲げる 9 つの力を身につけるための教育課程を編成し、地域の熱い期待に応えうる「知・徳・体の調和のとれた全人教育」を推進する進学校として、社会のリーダーを育成する教育活動を行う。

- ① 生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた丁寧で組織的な学習指導を行うことで、生徒の学力向上を図り、生徒の可能性を最大限引き出す教育を行う。
- ② 国公立大学や難関私立大学等への進学に向けて粘り強く努力し、自ら自己実現に向けて考え行動する進路指導を行う。
- ③ きめ細かい観察に基づく丁寧な生徒指導を行うことで、自他の存在意義や価値を認め、社会の成り立ちやルールを正しく理解できる生活指導を行う。
- ④ 生徒会活動、部活動、学校行事等をとおして豊かな人間性とリーダーシップを育み、国際交流活動等をとおして世界的な広い視野をもった生徒を育てる。
- ⑤ 地域に根ざした探究活動や体罰やいじめの未然防止の徹底及び特別支援教育の整備に取り組むことで、地域から信頼される教育を行う。
- ⑥ 生徒の資質・能力を育成する観点から、生徒のよい点や変容等を評価するため、各教科・科目で評価の場面や方法を工夫して評価を行う。そして、本校で育成を目指す資質・能力を踏まえた観点別評価により総合評価を行う。また、外部の模擬試験等により生徒の実力等を診断し、それぞれの個に応じた進路実現に活かす。

ウ アドミッション・ポリシー

本校は、スクール・ミッションに基づき編成された教育課程をとおり、情報化・グローバル化する社会の一員としての資質・能力を身に付け、地域社会に貢献できるとともに、自己の特性や能力を最大限に伸張させ、主体的にたくましく生き抜くことができる、「知・徳・体」の調和のとれた社会のリーダー育成を目指す。入学後の明確な目的意識及び進路希望についての強い意志をもって、その現実に向けて粘り強く努力できる生徒の入学を期待する。そのうえで、次の①に該当し、②又は③の項目に該当する生徒の入学を希望する。

- ① 学習に積極的に取り組み、教科の成績が優れている生徒
 - ② 部活動等において、中心となって積極的に活躍し、学業との両立を实践できる生徒
 - ③ 生徒会活動、学校行事、ホームルーム活動等においてリーダーとなる資質をもつとともに、学業との両立を实践できる生徒
- ※ 推薦選抜においては、上記の項目に加え、コミュニケーション能力に優れ、論理的な考察ができる生徒が望ましい。

2 中期的目標と方策

(1) 学力向上を図る教育の推進

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の研究開発に各教科が組織的に取り組み、生徒の学習に対する興味・関心を高め、自ら積極的に学習しようとする意欲と態度を育成する。
- ② 教員相互の授業観察と授業改善のための教員研修会の実施、及び生徒による授業評価や模擬試験・定期考査の結果分析による生徒実態の正確な把握を行い、それらに基づく授業改善を推進し、進学校に相応しい授業を实践する。
- ③ 探究研修部の主導により「総合的な探究の時間」に全教職員で取り組み、未来をたくましく生き抜く生徒の力を育成する。
- ④ 土曜授業による授業時数の確保と、家庭での学習習慣の定着に向けた計画的組織的な指導を实践する。

(2) 進路指導体制と指導内容のさらなる充実

- ① キャリア教育・進路行事の内容の充実化を図るとともに、3年間を見通した系統的・計画的で組織的な進路指導を行う。
- ② 長期休業中や土曜日の進学対策のための補講・講習、平常時の補習・講習等を組織的に実施し、生徒の国公立大学や難関私立大への進学希望を実現させる。
- ③ 学習指導要領・大学入試改革に対応した、生徒の諸活動の記録と蓄積を組織的に進める。
- ④ 読書を奨励して進学の先にある職業選択について興味・関心を深めさせる。

(3) 心身ともに健全な生徒の育成

- ① 基本的な生活習慣や社会規範の確立に向けた指導を徹底するとともに、「人間と社会」における体験活動やボランティア活動をとおり、他者を思いやる心の醸成と自律的な行動がとれる資質の育成を図る。
- ② 挨拶の励行指導、遅刻防止や身だしなみ等の指導を継続して行い、落ち着いた学習・生活環境づくりを推進する。
- ③ 教育相談機能を充実させ、きめ細かい生徒観察と丁寧な生徒対応を行い、生命の尊重やいじめ・体罰の未然防止について組織的に取り組むとともに、特別支援教育の充実を図る。
- ④ 避難訓練や防災教育等をとおり、自他の生命と安全に対する意識を深め、災害時等に地域から頼られる存在となる指導を实践する。

(4) 世界を視野に入れたグローバル人材の育成と主体的・自律的な行動力をもった生徒の育成

- ① オーストラリア海外研修旅行、海外修学旅行の充実を図り、海外からの留学生の受入を定着させて国際交流活動を充実させるとともに、「学校2020レガシー」も継続していく。
- ② ホームルーム活動や生徒会活動、部活動、学校行事等に積極的に取り組み、学習との両立ができる、人間性豊かで主体的・自律的な行動力をもった生徒を育成する。

(5) 教育活動の積極的な発信と募集活動の推進

- ① ホームページの内容充実と適時の更新、授業公開、学校見学会、学校説明会等の充実と、部活動体験、中学校の体験授業受け入れ、学校評価アンケート結果のホームページでの公開等により、中学生や地域の

方々、さらには広く都民に積極的に本校の教育活動を紹介し、本校への理解を深めてもらうとともに効果的な募集活動を実施する。

- ② 保護者会や三者面談、保護者対象の進路講演会等を充実させ、学校の教育活動に対する保護者からの信頼と理解を得る。

(6) デジタル技術を活用した教育の推進

- ① 生徒の学ぶ意欲に応え、その力を最大限に伸ばすためのトータルツールとして、教育のICT化を推進する。
- ② ICTを活用して、一人ひとりの理解度や進度に応じて個別最適化された学びや生徒同士の主体的・対話的な学びなどを実現し、「知識習得型」から「価値創造・課題解決型」の学びへの転換を図る。

(7) 学校の組織力の強化

- ① すべての教育活動を進路指導に収斂させ、学校全体として進路指導に取り組む体制づくりを推進する。
 - ② 教職員のライフ・ワーク・バランスを推進するため、校務の効率化と業務縮減に取り組む。
 - ③ 教職員の服務規律の徹底を図る。
 - ④ 新学習指導要領及び本校グランドデザインに則って、カリキュラムの実施に向けて体制の強化を図る。
- また、教育相談機能の強化を目指して、教育相談会議などの校内研修等の充実を図る。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

ア 学習指導

- ① 「チャイムで始め、チャイムで終わる授業」を推進する。
- ② 「成瀬高校3年間の進路指導」の具現化を図り、成高生として必須の学力と自主的に学習する態度を育成する。
- ③ 入学時の生徒の進路希望の実現とより高い進路希望を叶えることのできる授業の改善に全教職員で取り組み、進学校として相応しい学習指導を推進する。その方策として、以下に掲げる取組を実施する。
 - ・「主体的・対話的で深い学び」における「問い」を重視した授業を実施
 - ・定期考査・模擬試験の結果分析とそれに基づく授業改善
 - ・習熟度別及び少人数授業のさらなる有効活用
 - ・家庭学習時間を把握し、自学自習や学習内容定着に向けた指導の充実
 - ・年間指導計画・単元指導計画に基づき、学習指導要領に則った適正な学習内容と進度の確保、観点別評価などの評価方法の検証と改善
 - ・一人1台端末などのICTを活用した「価値創造・課題解決型」の学び実践
 - ・年4回以上の教員相互の授業見学による授業力の向上
 - ・他校の指導教諭による模範授業の活用 ・予備校主催の授業力向上セミナーの活用
 - ・生徒による授業評価アンケートの結果分析の実施とその活用
- ④ 「総合的な探究の時間」の取組を推進、充実させるとともに他校との連携を強化する。
- ⑤ 「英語教育研究推進校」として、進路選択を視野に入れた英語外部検定試験の受験促進と英語力の伸長を図る。

イ 進路指導

- ① 進路指導部を中心として、国公立大学、難関私立大学への生徒の進学希望を叶えられるよう学校全体として組織的、計画的に指導にあたる。
- ② 生徒個人面談に加えて三者面談・保護者面談、保護者対象の進路研修会を充実させ、保護者と連携した進路指導を推進する。各学期に面談週間を設け、個別最適の進路指導の強化を図る。
- ③ 平日や土曜日の放課後、長期休業中において、進学対策講習、学力定着補講を効果的に実施する。
- ④ 計画的な読書指導をはじめとする言語活動の充実を図り、生徒の精神的成長を促し、職業選択のための幅広い知識を習得させる契機とする。

ウ デジタル技術を活用した教育活動の推進

- ① 統合型学習支援システムを活用した、「学び方改革」と「教え方改革」を推進する。
- ② 統合型校務支援システムを活用し、「働き方改革」を推進する。

- ③ BYOD・CYODや高速通信環境（Wi-Fi）を活用した学習環境の充実と推進を図る。

エ 生活指導、保健指導

- ① 基本的な生活習慣の確立、特に遅刻防止の指導を全教職員で徹底して行う。そのため、始業時、授業開始時や、学年集会など、教育活動のあらゆる場面で遅刻防止の意識付けを行う。
- ② 身だしなみ・服装（スカート丈、化粧）等の指導を徹底し、学校生活の規律を遵守させる。
- ③ きめ細かい生徒観察による迅速かつ適切な生徒対応を行い、生徒同士の良好な人間関係構築を支援、自己肯定感を育む。また、いじめ・体罰の未然防止とSOSの出し方に関する教育に組織的に取り組む。
- ④ 日常の美化活動を徹底して行い、落ち着いた学習・生活環境づくりを推進する。
- ⑤ 薬物乱用防止、成瀬高校SNSルール等により、健全な社会観を育成する。
- ⑥ 交通安全等のセーフティ教室を開催し、特に自転車の乗り方については指導を徹底するとともに、ヘルメット着用の指導を徹底し、登下校時の自転車事故減少をめざす。

オ 特別活動

- ① ホームルーム活動や生徒会活動、部活動、学校行事等で生徒の自主性や参加意欲、成就感を育てるとともに、教科とも連携しながら主権者教育の充実を図る。
- ② 部活動加入を促進して生徒の学校への帰属意識を高め、部活動を最後までやり抜く強い精神力を養う指導を行い、教科指導とも連携して文武両道を実現する。

カ 健康づくりの推進

- ① 家庭や地域と連携して健康教育を推進し、健康、安全、環境、食育等に対する意識を高め、自らの健康を保持・増進させる態度を育てるとともに、「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づく、体力向上に向けた意識を培う。
- ② 不登校・発達障害等の特別支援教育については、特別支援教育コーディネーターを中心に生徒の目線に立った支援をスクールカウンセラーや外部機関と連携して行う。

キ 学校運営

- ① 授業改善と遅刻防止の指導を徹底して推進し、生徒の進路希望実現と進学実績の向上に資する。
- ② 探究研修部主導による組織的な「総合的な探究の時間」の実施と指導計画・指導内容の充実化を図る。
- ③ 統合型校務支援及び統合型学習支援システムにおいて、教育活動全般への効率的活用を実践する。
- ④ 新学習指導要領、教育相談、授業力・進路指導力向上等に関する校内研修会を充実させる。
- ⑤ 「進学指導研究校」で培った指導経験を踏まえ、引き続き進路指導部を中心に組織的な進路指導体制の確立に取り組み、進路指導の実践力と教科指導力を高め、生徒の進路実現を図る。
- ⑥ 「理数研究校」については、理数研究校事業推進委員会を中心に取組を充実させ、理数教育への興味・関心を引き出し進路希望の選択肢を広げさせるとともに、生徒の自律的・主体的研究活動を支援する。
- ⑦ 「英語教育研究推進校」として、生徒の「使える英語力」の向上を図るため、特に「聞く」、「話す」に重点を置いたきめ細かい指導を行い、進路実現に向けた英語力向上を図る。
- ⑧ 「海外学校間交流推進校」として、台湾修学旅行、オーストラリア研修旅行の事前・事後学習、及び現地校との継続的交流によって、グローバル人材の育成と国際教育を促進する。また、台湾からの長期留学生受入・東京体験スクールなどの短期留学生の受入などの受入体制の整備を推進する。
- ⑨ 経営企画室との緊密な連携を図りながら、入学選抜業務の適正実施を目指す。
- ⑩ 予算編成・執行、施設管理、学事務、窓口業務等、学校経営の根幹を支える経営企画室の業務の適正化と充実化を図る。
- ⑪ 校務効率化と業務縮減などの教職員提案を積極的に取り上げ、ライフ・ワーク・バランスの取組推進。
- ⑫ 服務事故防止研修等を通じて服務規律を徹底する。

ク 地域連携

- ① 交通安全教室・防災教育やボランティア体験活動、地域美化活動等の体験学習の機会を通して、警視庁町田警察署・東京消防庁町田消防署成瀬出張所・町田市役所・成瀬高ヶ坂地区自治会及び保育園・幼稚園、小学校、中学校等など地域の諸教育機関との活発な連携を行う。
- ② 学校開放事業、避難所連絡会等の地域連携活動を通して、地域に開かれた学校の取組を推進する。

ケ 募集広報活動

- ① 東京都教育委員会指定3事業を学校の特色の中心に据えて、学校広報・生徒募集活動を推進する。

- ② 学校での出来事を随時ホームページに掲載し、学校の教育活動に対する保護者の理解と協力を得るとともに、生徒の活躍を学校外にも広く知らしめる。
- ③ 授業公開、学校見学会、学校説明会、部活動体験等により、中学生を主として地域の方々に積極的に本校の教育活動を紹介していく。

(2) 重点事項

ア 学習指導

- ① 全教職員が進学校に相応しい授業改善に取り組み、各教科で「主体的・対話的で深い学び」に根ざした授業を行い、生徒、保護者から信頼される学校を目指す。
- ② 教科・科目間の連携も強化し、探究を視野に入れた教科横断型授業等を推進する。
- ③ 「総合的な探究の時間」の全校体制での指導推進と3年間の指導計画に則った指導内容の充実を図る。

イ 進路指導体制と内容の充実、生徒の進路希望実現

- ① 進路指導部を中心とした組織的な進路指導体制を構築し、学年間の連携を強化する。
- ② 進路指導部による模擬試験等の結果分析を実施し、教科による学力把握と授業改善に結びつける。
- ③ 国公立大学、難関私立大学への生徒の進学希望を叶えるため、教員による大学入試研究を促進する。
高い志を実現するため、志望者の集団形成・出願者の増化をめざす進路指導体制を構築する。

ウ デジタル技術を活用した教育の推進

- ① 一人1台端末を活用した教育活動を活性化する。
- ② 統合型学習支援システムを活用した学習支援体制を推進する。
- ③ 統合型学習支援システムを活用した対面学習とオンライン学習を併用したハイブリッド型学習活動を推進する。
- ④ 統合型校務支援システム(C4th)の定期考査採点・分析システム(リアテンダント)を活用した定期考査・模試分析と授業改善への対応を図る。
- ⑤ 保護者コミュニケーションシステム・コンデションレポートを活用して、学校・生徒・保護者との連携を強化する。

エ 生活指導・部活動・保健指導

- ① 登下校時の自転車事故防止・ヘルメット着用推進・遅刻防止指導を教職員全体で推進するとともに身だしなみ指導等を通して学校生活の規律を守らせる。部活動を通じて学校への帰属意識を高め、最後までやり抜く力を養う。
- ② 特別支援教育については、スクールカウンセラー及び特別支援教育コーディネーターを中心とした教育相談委員会において迅速に生徒状況把握やその対処法について関係機関とも協議し、全教職員の教育相談会議等で共有化を図り、組織的に取り組む。

オ 組織の活性化

各分掌・各学年の目標・課題を年度初めに設定する。学期ごとにPDCA会議を開催して、組織的に成果と課題を共有し、次の課題解決に向けての検討をしながら組織の活性化を図る。

カ 東京都教育委員会指定3事業の推進と特色を生かした学校広報の推進

「英語教育研究推進校」、「理数研究校」、「海外学校間交流推進校」の東京都教育委員会指定3事業を推進し、本校の教育活動の質の向上と生徒の学習意欲の喚起、進路希望の実現に繋げる。また、これら3事業を学校の特色として、教職員全体で学校広報・生徒募集活動を展開する。

キ 服務関係

服務規律(情報セキュリティ強化、個人情報情報の適正管理、ハラスメント防止、性暴力防止、「事故発生時の救急体制」に則った安全配慮義務の遵守、適正な会計処理等)の徹底を図り、服務事故0件を目指す。

ク ライフ・ワーク・バランスの取組

「学校における働き方改革プラン」及び「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」に基づき、教職員の負担を軽減し、その能力を最大限に発揮していけるように、教職員の意見も取り入れながら業務改善を行う。時間外勤務時間の見える化などにより教員の意識改革を図るとともに、マイ定時退庁日等の設定、夏季休暇や年休の取得促進等により、在校時間の縮減を図る。

数値目標	参考 昨年度数値
(1) 学校運営・組織	
① 学校評価の満足度 生徒 90%	生徒 90.8% (1年) 83.3% (2年) 79.0% (3年)
保護者 90%	保護者 87.9%
② 服務事故防止研修以外の校内研修 6 回以上	服務事故防止研修以外の校内研修5 回
(2) 学習指導	
① 授業に対する満足度 生徒・保護者とも85%以上	生徒81.6% 保護者81.5%
② 授業研究及び研修の実施 10回以上実施	授業研究及び研修の実施 9回実施
③ 家庭学習時間 1学年 2時間 (学年+1時間) 2学年 3時間 3学年 4時間	達成率 1学年 2時間以上 9.1% 2学年 3時間以上 16.7% 3年生 4時間以上 60.8%
④ 教員相互の授業観察 年間4回以上 (学期1回以上)	年間4回以上実施
(3) 進路指導	
① 長期休業日中の講習 夏期講習 ・全学年で実施 ・生徒提示5月中 ・90講座の開設 ・受講者延べ1,000人 冬期講習 ・全学年で実施 ・30講座の開設 ・受講者延べ200人 春期講習 ・新2・3年で実施 ・15講座の実施 ・受講者延べ100人	夏期講習 50講座 (3学年) 18講座 (2学年) 16講座 (1学年) 全84講座開設受講延べ1035人 冬期講習 全28講座開設 受講延べ117人 春期講習 全12講座 受講延べ100人
② 模試分析会・模試報告会 年間3回	全体模試分析会 年3回
③ 進学実績 (現役) ア 大学入学共通テスト受験者数 257人 (95%以上) イ 国公立大学: 受験者数 30人 ウ 国公立大学等合格者 15人 エ 難関私立大学(早慶上理) 合格者 15人 オ GMARCH合格者数 100人	246人 26人 9人 3人 62人
(4) 生活指導	
① 部活動加入率 (1・2年) 85%以上	82.0%
② 年間遅刻者数 各学年、前年度より減少させる。	1年 342回 2年 1089回 3年 784回 全体 2225回
(5) 指定校事業関係	
① 英検スコア (2学年4技能合計値) 1728	※参考 GTECスコア (1学年4技能合計値) 741
(6) 募集・広報・地域活動	
① 本校での学校説明会・見学会等参加数延べ 4,000人	3,864人
② HPアクセス数 前年度よりアクセス数増加 HP更新回数 前年度より更新回数増加	705,642回 880 回
③ 応募倍率 推薦枠 2.5倍 一般枠 1.5倍	1.75倍 1.13倍
(7) 施設設備管理・経営企画室運営	
① 管理運営費と自律経営推進予算の執行率 98%以上	96.5%
② 一般需用費のセンター契約集約率 (%) 60%以上	56.7%
③ 令和6年度予算編成 2月完了	2月完了